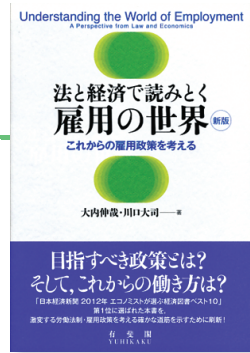


法と経済で読みとく 雇用の世界 新版

——これからの雇用政策を考える



大内伸哉 = 川口大司
2014年1月刊/350頁/1995円(税込)
四六判/並製



編集担当者から 2012年に日本経済新聞の「経済図書ベスト10」で1位に選ばれた本書ですが、刊行後の雇用情勢の変化をふまえて刷新しました。解雇法制についての議論を大幅に拡充（6章等）し、労働契約法、労働者派遣法、高年法の改正にあわせた解説も追加しました。なかでも労働者派遣は初版ではほとんど扱っていませんでしたが、新版では大きく取り上げています（9章等）。しかし最も大きな変更点は、皆様もお気づきの通り、サブタイトルの変更に現れています。終章を新たに政策視点で書き下ろし、「これからの雇用政策を考える」と題し、錯綜する政策論議に対して、特に重要なトピックを取り上げて、アカデミックな背景に基づく確かな議論と展望をわかりやすく提示しました。また各章にも政策提言的な内容を強化しました。特に8章と9章で大きく触れたワーク・ライフ・バランスに関する議論も必読です。さらにパワーアップした本書を、これからの雇用政策を考えるうえでのひとつの指針として、ぜひご覧ください。（尾崎）

Point!



書き下ろしの新・終章。重要な政策課題に深く斬り込みます。



賃金

第2章で取り上げた最低賃金は、2013年度も大きく引き上げられることになった。2013年度はとくに、政府サイドから経済成長のために賃金を引き上げることが強く主張され、実質的に取